

# ラグビー部

場所 上田醫大グラウンド  
 参加校、盛工、盛中、岩中  
 メンバー

野木石綿村西藤根(敬) 野藤(光)  
 藤佐津小中葛佐藤 池佐  
 F.W. H.B. T.B. F.B.  
 田松部保 澤  
 久村阿久 小

五月五日

○岩中對盛工

盛工氣鋭にして我が岩中の傳統を覆へさん  
 ものとその突込は猛烈、だが鐵壁の我がホワ  
 ードよくこれを抑へ、快足のコーター、又輕  
 くこれを受け流す。しかし、その頑張りには  
 侮り難きものを感じず。

岩 中 14  
 6 8  
 0 3  
 3 盛工

五月七日

○岩中對盛中

好敵御參なれ!! 岩中ホワード猛烈な突込  
 み、だが敵もさるもの前半しきりにねばる、  
 後半、我が軍日頃の練習に物をいわせて得  
 點を重ねる。

岩 中 23  
 17 6  
 0 0  
 0 盛中

△春季市内中等高専ラグビー大會

戦跡【春の部】

斯くて榮冠は我等が頭上に……

△春季縣下中等ラグビー大會

五月三十一日

場所 上田、醫大グラウンド  
 参加校 岩中、盛中、盛工、黒工

○岩中對盛中

巨軀を利し來る敵、しかし我が猛撃常に敵  
 を制壓して、スクラム・トライ、或はコータ  
 ーの鮮かなプレーを見せて又も勝つ。

岩 中 28  
 14 14  
 0 0  
 0 盛中

六月一日

○岩中對盛工

前半ホワードの突込みよく利き、得點を重  
 ねしも、後半昨日の試合の爲か、にわか疲  
 勞の色見え、負傷者を出すなどの苦境に陥り  
 敵に得點を許した。結果は同點であつたが、  
 結局反則勝で勝利は我手に歸す。

岩 中 6  
 6 6  
 0 0  
 6 盛工

3—(ペナルティー)—6

(こんな試合をして先輩に申譯ない、秋の  
 復讐を誓ふ)

△縣下七人制ラグビー大會

主催 盛岡工專ラグビー後援會

關東ラグビー協會岩手支部

後援 盛岡工專

新岩手日報

メンバー

組野藤綿野田村掛B西木津藤(光)  
 A藤佐小池久川角組葛佐石佐阿村久  
 F.W. H.B. T.B. F.W. H.B. T.B.  
 村澤池泉田吉谷

組田小菊小村本熊

F.W. H.B. T.B.

七月六日

一回戰

岩中A 6  
 3 3  
 3 0  
 3 黒工A

つぶやき

處世の道は要領でなく誠意である  
 誠意は最後の勝利を得る

高橋 浩

岩中B 20  
 10 | 10  
 | |  
 0 | 0  
 0 盛工B

岩中C 0  
 0 | 0  
 | |  
 9 | 5  
 14 盛工A

準決勝

岩中B、不戦勝 岩中A

決勝

岩中B 6  
 3 | 3  
 | |  
 0 | 0  
 0 盛工A

軽く優勝しカップ授與さる。

【秋の部】

國民大會には三年以下の選手は出場出来ぬことになり、相當の打撃を受けたが、宿敵秋工打倒の意氣に燃える我等は、直ちにメンバーを整へて練習を開始、夕闇にボールが見えなくなる時迄、グラウンドを紅血に彩つた。

△第二回國民大會縣豫選

場所 上田、醫大グラウンド  
 参加校 岩中、盛中、黒工、黒中

九月二十七日

一回戦

岩中 39  
 27 | 12  
 | |  
 0 | 3  
 3 黒工

九月二十八日  
 決勝

岩中 6  
 6 | 0  
 | |  
 3 | 0  
 3 盛工

戦力伯仲、一進一退の白熱戦を演じ、最後のふん張り津輕石君感激の一トライ成り、遂に優勝、東北豫選にのぞむ。

△第二回國民大會東北豫選

場所 上田、醫大グラウンド  
 参加校 秋工、仙商、青森中、岩中

十月四日

岩中 9  
 3 | 6  
 | |  
 3 | 3  
 6 仙商

宮城代表一觸にして破り、決勝に進む。

十月五日

決勝

岩中 3  
 0 | 3  
 | |  
 27 | 6  
 33 秋工

敵、我れより一日の長あり、体力に於て敗れた。彼に比し、我が方の耐久力なきを痛感す。

△全國ラクビー大會岩手縣豫選

山は紫色に、降る雨は冷たし、おそろしく、これが今年最後の試合かと思へば、何か無量の感慨に満たされる。

十一月八日  
 場所 上田、醫大グラウンド  
 一回戦

岩中 47 | 0 盛中

非常な悪コンディションであり、又試験直後の練習不足にかゝわらず、調子よく、開校以來の對盛中戦跡を収めた。

二回戦

岩中 6  
 3 | 3  
 | |  
 6 | 6  
 12 盛工

あゝ無念！この屈辱、敗れたのだ。

御指導下さつた戸嶋先生に、又先輩や校友に、どの面下げて會はれよう……只敗殘の涙にくるゝのみ。後輩諸君よ我等は不覺にも有終の美をなし得なかつたが、君等はきつとこの復讐をなし遂げてくれ、間違つても試合には負けてくれるな、何時迄も覇者たれ〳〵の言葉を餞に諸君の火の玉の精進を祈念す。  
 (佐藤記)